

◆ 2021 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：風間 健太郎

24A-42

代表者：

URL : <https://sites.google.com/site/kntkazama/home>

1. 活動が必要とされた状況

カワネズミは潜水して餌を捕る小型哺乳類で、人目に触れる機会が非常に少なく、正確な生息状況の把握が難しい。そのため、カワネズミの生息情報が知られないまま生息域が開発により消滅したり、環境改変されたりしてしまう可能性が高く、人知れず絶滅してしまう恐れがある。

埼玉県においてカワネズミは準絶滅危惧種に指定されているが、正確な生息情報はごくわずかである。カワネズミは積極的に生息確認調査を行わなければその生息の有無や個体数密度の動向を知ることは難しい。本調査では県内におけるカワネズミの正確な生息状況を調べ、本種の効果的な保全策の構築に繋がりたいと考えている。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

日程①： 2021年11月11日

〈参加人数〉 大人2人

〈活動内容〉 カワネズミ捕獲調査に向けて、捕獲地の選定のための下見を行った。

日程②： 2021年11月13日～14日

〈参加人数〉 大人7人、子ども1人

〈活動内容〉 埼玉県秩父地域において、カワネズミの捕獲調査、聞き取り調査、目視による痕跡調査を行った。

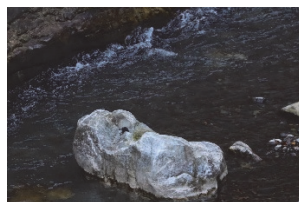
日程③： 2021年11月19日～20日

〈参加人数〉 大人4人、子ども1人

〈活動内容〉 埼玉県飯能周辺において、カワネズミの捕獲調査、聞き取り調査、目視による痕跡調査を行った。

3. 活動の成果

下見および捕獲・聞き取り・目視による痕跡調査の結果、秩父地域及び飯能地域のいずれにおいてもカワネズミの捕獲はできなかった。聞き取り・痕跡調査の結果、秩父地域においては地元の人々の目撃情報やカワネズミの糞を見つけることができた。一方で、飯能地域においては地元の人々の目撃例も痕跡もなかったため、生息していない可能性がある。



4. 今後に残された課題

今回はオミクロン株の影響で、本来であれば回数及び現地滞在時間を十分に取らなければならない調査を縮小して行ったため、十分な調査活動ができず、カワネズミの正確な生息情報を得ることができなかった。また、調査回数を重ねると持ち出しとなる交通費・宿泊費が高額となるため、今後は交通費や宿泊費等の財源確保も課題となる。